

令和2年度 地域に飛び出せ大学生！ おかやま元気！集落研究・交流事業 取組概要一覧

地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業とは？

おかやま元気！集落における諸課題について、地域と協働して現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な手法の検討に取り組む大学を支援する事業です。

令和2年度は5大学6研究室が取り組みました。

目次

- 1 津山市上加茂地域（物見地区） × 美作大学（小坂田・堀川研究室）
- 2 笠岡市真鍋島・六島 × 美作大学（有岡研究室）
- 3 矢掛町江良集落 × 岡山大学（地域総合研究センター）
- 4 西粟倉村大茅地区 × 芝浦工業大学（地域創生研究室）
- 5 久米南町下粕地区 × 中国学園大学（佐々木ゼミ）
- 6 美咲町南和気地区 × 早稲田大学（稲継裕昭ゼミ）

1. 津山市上加茂地域(物見地区)

× 美作大学(小坂田・堀川研究室)

趣旨・目的

2018年度に策定した「地域活性化計画『かがやく未来! ものみりよく計画』」の具体的な実行を通じて、地域の生活課題解決につなげる。

主な取組

トマト栽培及びケチャップづくり

「のみりよく計画」にあがった「①誰もが気軽に寄れる物見」、「②魅力ある物見」、「⑤生きがいを感じられる物見」に基づいて、特産品開発と地域交流を目的として、トマト栽培とケチャップづくりを実施した。



見守りの緑の旗設置

「のみりよく計画」にあがった「③手ごしあえる物見」に基づいて、声かけ見守り活動の推進として見守りの緑旗を全戸に設置。

さらに、「④安心して暮らせる物見」に基づいて、防災に関する情報をまとめた冊子を作成した。



訪問サンタ、冊子の配付

学生のアイデアで、コロナ禍に役立つアイテムとして石鹸を手作りし、冊子とともに一軒一軒にプレゼントした。



成果

高齢者見守りや防災など、地域の生活課題の解決に寄与することができた。

また、地域住民が集まって地域づくりに取り組む機会を創出し、住民の地域づくりに対する意識醸成につながった。

2. 笠岡市真鍋島・六島 × 美作大学(有岡研究室)

趣旨・目的

これまでの調査活動により、島の子ども達と保護者は島ごとで固まり、交流があまりない状態であることが分かった。

そこで、子どもと親が一箇所に集まって交流することにより、子育てについて話したり、島の課題解決について学習する場を提供する。

主な取組

親子の交流の場づくり

真鍋島と六島の親子を招待して交流会を実施した。交流会では、ハーバリウムやケーキづくりといったレクリエーションを通じて、親子間の交流を深めた。

活動報告会

島での活動を学生から報告し、子どもを含めた参加者と活動内容や地域の課題について意見交換を行った。



成果

島外との交流の機会が少ない島の子ども達に対し、大学生をはじめとする多様な人との交流の機会を設けることで、社会性を育むことができた。

また、真鍋島と六島の間で親世代の意見交換ができる場を提供することにより、子育て環境の改善につなげた。

3. 矢掛町江良集落 × 岡山大学 (地域総合研究センター)

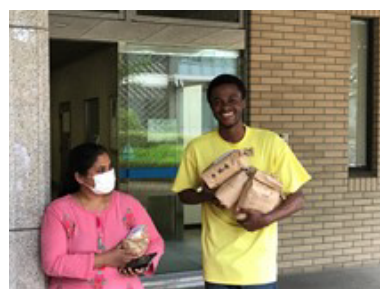
趣旨・目的

SDGs (持続可能な開発目標) に照らし合わせ、江良集落のフードロス問題を検討し、特産品開発を行う。地域住民、学生、教員が協働して、活力のある集落形成を目指す。

主な取組

特産品開発及びモデルツアー実施

学生が魅力的に感じた地元の食材を使って、柿シャーベットなどの特産品を開発した。また、農村滞在を目的に観光客向けのツアーを企画・試行した。季節ごとのイベントや農作業を体験し、参加者は、満足度や改善点などを調査した。若者が交流人口に寄与するとともに、矢掛町内にある4つの元気集落が連携した出店も始まった。



矢掛町全世帯向けアンケートの実施

矢掛町全世帯に「学生交流を通じた地域の変化に関するアンケート」を実施し、学生と地域との交流や現地での活動が、地域資源の発掘、伝統行事の維持、地域の情報発信などにおいて効果があることが明らかとなった。



矢掛町元気集落から留学生に米一トン寄贈

矢掛町と岡山大学はまちづくりの交流を行い、10年が経過した。また、学生が平成30年7月豪雨災害のボランティアに参加したことへのお礼として、コロナ禍で生活が困窮している留学生を集落が支援した。



成果

本事業を通じて、コロナ禍の中で、交流の機会は限定されたが、質の高いまちづくりができた。成果として、以下の点が明らかとなった。

- (1) 集落は、大学生によるまちづくりの参加を受け入れ、都市生活者を支援できる。農村と都市の持続的な交流の姿を発信した。
- (2) 若者と集落の交流は、双方を成長させる。住民の地域に対する愛着や関心が深まり、地域づくりに対する意識醸成に寄与する。若者は、地域の課題に取り組むまちづくりの実践を学び、次世代の育成につながっている。
- (3) 地元メディアに登場することで、まちづくりに対する意欲が強くなっている。
- (4) 集落にある美味しい食べ物や広い空間は、若者を惹きつける魅力となっている。それらの積極的なPRが必要になっている。

4. 西粟倉村大茅地区 × 芝浦工業大学 (地域創生研究室)

趣旨・目的

大茅地区が抱える現状や課題について SDGs の視点から発見・整理するとともに、課題解決につながる活動を現地にて実施する。

また、現地の生活や問題意識、将来の夢などについて集落内外の若い人材を取材し、記事にまとめ、地域の魅力を発信する。

主な取組

現地調査

現地からオンラインにてライブ中継し、村内の施設を視察したり、地区の歴史・現状について説明を受けたりした。

取材及び記事作成

集落内外の住民や事業者を対象に、仕事内容や日常生活、将来の夢などを取材し、SDGs の視点から記事を作成した。作成した記事は発表会にて紹介した。

現地での活動

集落内にある「おおがや芝桜公園」において芝桜の移植を行ったほか、地域の歴史を記した「大茅区有文書」のデジタル保存に取り組んだ。



成果

地域住民に対するインタビュー記事を作成することで、外部の視点から地域の魅力を再発見することができ、地域住民の地域に対する愛着心醸成につながった。

また、芝桜の移植や古文書のデジタル保存に取り組むことで、地域を次世代につなぐ活動を支援した。

5. 久米南町下粕地区 × 中国学園大学(佐々木ゼミ)

趣旨・目的

孫世代の関係人口獲得に向けて、久米南町下粕地区の若者視点での魅力発見とICTを活用した情報発信を行う。

主な取組

PR動画制作

学生がフィールドワークを通じて下粕地区の魅力を体験し、Facebook やラジオで発信した。また、動画を制作し、YouTube で配信した。



イベント開催

ホームセンター及び高校と連携して、ロケットストーブを製作するDIY体験を実施した。製作したロケットストーブは地域へ寄贈した。

また、下粕地区の野菜と餅を学生が販売するイベントを開催した。



成果

県内の高校生と連携した活動を行うことで、若い世代の関係人口構築につながった。

SNSや動画投稿サイト等、様々な媒体を活用してPR活動を行うことで、町内のみならず多くの方へ下粕地区を知ってもらう機会を提供した。

積極的なPR活動からイベント開催につなげ、多くの来場者に地区の産品を販売することができた。

6. 美咲町南和気地区 × 早稲田大学 (稲継裕昭ゼミ)

趣旨・目的

地域住民との交流を通じて、美咲町南和気地区の関係人口の増加を図る。大学生という若い視点から企画立案を行うことで、地域の少子高齢化・人口減少といった諸課題に対する新しい解決策の提案を目指す。

主な取組

地域住民へのヒアリング

現地を訪問して意見交換を行ったほか、オンラインツール (Zoom、LINE) を活用して、地域の現状や課題などについてヒアリングを行った。

アンケート調査

南和気コミュニティ協議会の会員に対してアンケート調査を実施し、協議会の課題や改善点等について検討した。

成果報告会

中学生を巻き込んだみらい会議、地域活動等に対してポイントを付与する地域ポイント制度、ふるさと納税やクラウドファンディングを活用した政策などを学生が提案した。

成果

地域住民に対するヒアリングやアンケート調査をもとに、地域の現状や課題を洗い出すことができた。

政策立案に当たっては、全国の事例等を研究し、今後も課題に向き合っていく地域住民の意向を反映した提言を行った。

